

## **第2章 葉山町まち・ひと・しごと創生総合戦略**

(令和3年度～令和6年度)

## 第1節 基本的な考え方

### 1 計画の基本目標（施策の基本的方向）

本計画の基本目標（「施策の基本的方向」）は、まち・ひと・しごと創生法や内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局による『第2期まち・ひと・しごと創生基本方針2020』及び「葉山町人口ビジョン」（第1章）で提示した“めざすべき将来の方向”である、

1 “社会増傾向”の維持・継続に努める

2 子育て、教育環境の向上を図る

3 「健康長寿のまちづくり」に積極的に取り組む

の内容を踏まえ、以下の3つとします。

#### 基本目標1 地域が生き生きと元気や活力にあふれ、ひとを集めるまち

～葉山の魅力の効果的な発信により、関係人口を増加させ、定住化を促進します～

- ①「葉山」というブランドと結びついた産品や魅力ある店舗を軸に農業・水産業・商業が連携し、持続可能な産業づくりをしていきます。
- ②ガイドマップ、ホームページ、インスタグラムなどを相乗的に作用させ、町に訪れる方が町民目線で葉山を感じられるような葉山らしいライフスタイルを発信することにより、来訪者が自分事としてとらえる機運を醸成し、将来の移住促進に繋がります。
- ③協働によるまちづくりを推進し、地域コミュニティの活性化を図ります。

#### 基本目標2 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえるまち

～人口構成のバランスに配慮し、子育て世代の転入・定住者を増やします～

- ① 家庭、教育・保育施設、保健医療機関、地域が連携し、子どもたちの健やかな成長と、安心できる子育ての環境づくりを推進します。
- ② 変化する時代に主体的に対応する人間の育成をめざし、学校・家庭・地域が連携しながら、教育内容や指導體制等の充実、教育環境の整備を進めます。

### 基本目標3 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るまち

～豊かな自然の中で、心身ともに健康で安心して暮らせるまちをつくり  
ます～

- ① 葉山の強みである豊かな自然をいつまでも残せるよう、貴重な緑を保全し、町民と協働して緑豊かなまちづくりを推進していきます。
- ② 安全に暮らせるまちづくりに向け、火災や交通事故などに迅速・的確に対応できる消防・救急体制の構築や、地震・風水害への対応など、防災力の強化を図ります。
- ③ 町民自らが健康づくりを実践・継続できるようきっかけづくりに努めます。
- ④ 地域の特性や地域のニーズに応じたまちづくりを推進し、誰もが暮らしやすいユニバーサルデザインのまちづくりについて研究を進めます。

## 2 本町の地方創生の取り組みとSDGs

2015年9月に国連サミットにおいて、17のゴールと169のターゲットから構成されるSDGs（Sustainable Development Goals）は、全会一致で可決されました。

これらの17のゴールは密接に関わっており、経済成長を促しながら、教育や健康など幅広い社会的要請を充足しつつ、貧困の解決や気候変動と環境保護にも取り組む戦略も必要なことを示しています。

17のゴールの関連性は、図のように示すことができます。このモデルでは、17のゴールは「経済圏」、「社会圏」、「生物圏」の三つの層に分類され、お互いに関連しあっており、その中心をゴール17（パートナーシップで目標を達成しよう）が貫いています。土台になっているのは、ゴール13（気候変動に具体的な対策を）、ゴール14（海の豊かさを守ろう）、ゴール15（陸の豊かさを守ろう）とゴール6（安全な水とトイレを世界中に）からなる「生物圏」です。その上に、「社会圏」が、さらにその上に「経済圏」が成り立っています。これは、経済は社会に、社会は生物圏すなわち環境に支えられていることを示しています。

本町でも第2期総合戦略での取り組みを推進することで、SDGsの目標である世界がめざす持続可能な社会の発展にも貢献していきます。



出典：Stockholm Resilience Centre

<https://www.stockholmresilience.org/research/research-news/2016-06-14-how-food-connects-all-the-sdgs.html>

【第2期葉山町まち・ひと・しごと総合戦略の施策とSDG s の関係】

		SDG s 17のゴール																
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰
総合戦略の基本目標と具体的な施策		貧困をなくそう	飢餓をゼロに	すべての人に健康と福祉を	質の高い教育をみんなに	ジェンダー平等を実現しよう	安全な水とトイレを世界中に	エネルギーも経済成長も	働きがいも経済成長も	産業と技術革新の基盤をつくろう	人や国の不平等をなくそう	住み続けられるまちづくりを	つくる責任つかう責任	気候変動に具体的な対策を	海の豊かさを守ろう	陸の豊かさを守ろう	平和と公正をすべての人に	パートナーシップで目標を達成しよう
【基本目標1】 地域が生き生きと元 気や活力にあふれ、 ひとを集めるまち	(1) 葉山ブランドの発展	○	○						○	○		○	○	○	○	○	○	○
	(2) 葉山らしい“お店”が作るまりのイメージアップ	○	○						○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	(3) 新たな担い手の確保	○	○		○				○	○	○	○			○	○	○	○
	(4) 葉山らしいライフスタイルの発信								○	○		○			○	○	○	○
	(5) 地域コミュニティの活性化			○		○						○			○	○	○	○
	(6) 協働によるまちづくりの推進					○			○	○		○			○	○	○	○
	(7) 「三浦半島魅力最大化プロジェクト」との連携					○						○			○	○	○	○
【基本目標2】 若い世代の結婚・出 産・子育ての希望を かなえるまち	(1) 子育てサービスの充実	○	○	○	○						○							○
	(2) 子どもの健やかな成長への支援	○	○	○	○						○							○
	(3) 子育て家庭への支援	○	○	○	○						○							○
	(4) 新しい時代に必要な資質・能力の育成	○	○	○	○	○					○		○	○	○	○	○	○
	(5) 青少年の育成	○	○	○	○						○							○
	(6) 多様なニーズに応じた支援の充実	○	○	○	○						○	○						○
	(7) 男女共同参画の推進	○		○	○	○			○	○								○
【基本目標3】 時代に合った地域を つくり、安心な暮ら しを守るまち	(1) 緑の保全活動活動の促進・支援						○					○		○	○	○		○
	(2) 消防組織と火災予防・救急体制の強化			○								○						○
	(3) 災害に強いまちづくりの推進			○								○		○				○
	(4) 健康づくりの支援・推進			○								○						○
	(5) 地域特性をいかしたまちづくりの推進			○		○	○					○						○
	(6) 公共交通の環境整備			○				○		○		○		○				○
	(7) 地球温暖化対策の推進							○		○		○		○	○	○		○

### 3 取り組みの展開

#### 基本目標

#### 具体的な取り組み

1 地域が生き生きと元  
気や活力にあふれ、ひと  
を集めるまち

- 施策 1 葉山ブランドの発展
- 施策 2 葉山らしい“お店”が作る町のイメージアップ
- 施策 3 新たな担い手の確保
- 施策 4 葉山らしいライフスタイルの発信
- 施策 5 地域コミュニティの活性化
- 施策 6 協働によるまちづくりの推進
- 施策 7 『三浦半島魅力最大化プロジェクト』との連携

2 若い世代の結婚・出産  
・子育ての希望をかなえ  
るまち

- 施策 1 子育て支援サービスの充実
- 施策 2 子どもの健やかな成長への支援
- 施策 3 子育て家庭への支援
- 施策 4 新しい時代に必要となる資質・能力の育成
- 施策 5 青少年の育成
- 施策 6 多様なニーズに応じた支援の充実
- 施策 7 男女共同参画の推進

3 時代に合った地域をつ  
くり、安心な暮らしを  
守るまち

- 施策 1 緑の保全活動の促進・支援
- 施策 2 消防組織と火災予防、救急体制の強化
- 施策 3 災害に強いまちづくりの推進
- 施策 4 健康づくりの支援・推進
- 施策 5 地域特性を生かしたまちづくりの推進
- 施策 6 公共交通の環境整備
- 施策 7 地球温暖化対策の推進

## 第2節 戦略の具体的内容

### 基本目標1 地域が生き生きと元気や活力にあふれ、ひとを集めるまち

～葉山の魅力の効果的な発信により、関係人口を増加させ、定住化を促進します～

本町への転入を促し転出を抑制するためには、地域が元気や活力にあふれて、生き生きとしていることが大切であり、安心して働ける「しごと」を確保し、「しごと」と「ひと」の好循環をつくり出す必要があります。「葉山」というブランドと結びついた産品や、魅力ある店舗を軸に、農業・水産業・商業が連携し、持続可能な産業づくりの推進を図る一方で、人口減少に伴う地域企業の人材確保等への対応が必要となります。

本町への“ひとの流れ”をつくっていくためには、町独自のゆったりとした時間が流れるような観光スタイルを確立させ、町民とともに町の持つ魅力を町内外に向けて積極的に発信し、交流人口や関係人口を増加させていくことが重要です。

また、地方創生の観点から三浦半島地域の振興を実現するため、神奈川県による『三浦半島魅力最大化プロジェクト<sup>(\*)</sup>』に位置付けられる事業との効果的な連携を図っていきます。

(\*) 三浦半島魅力最大化プロジェクトとは、神奈川県・横須賀市・鎌倉市・逗子市・三浦市・葉山町の各自治体が連携し、それぞれの地域特性を生かしながら三浦半島を活性化させるための取り組みのこと。

#### 【数値目標】

指標	現状値 (令和元年)	目標値 (令和6年度)	備考
事業所数(町内)(累計)	1,271	1,300	経済センサス 基礎調査

## 〔具体的な取り組み〕

### ◇施策1 葉山ブランドの発展



本町における農業は、直売や加工などで付加価値をつけることによって、都市近郊農業としての地位を保っており、引き続き販売経路の確保等を推進していく

必要があります。水産業は、いわし類、海藻類、貝類などを中心に漁獲していますが、資源の減少も進んでおり、稚魚や稚貝の放流を通じた作り育てる漁業の推進を図っていくとともに漁業の継続を支援する必要があります。また、「葉山牛」はブランド牛として広く認知されていますが、今後は消費者ニーズを踏まえた肉づくりに係る肥育法の研究と消費者拡大が課題です。

一方商業に関しては、小売業等の店舗は増加傾向にあり、葉山らしさを生かした魅力ある店舗が増えてきています。

こうしたことから、農業・水産業・畜産業・商業が連携し、いわゆる「6次産業(\*)」を創出していけるよう、地元製品の生産から販売までの一貫した支援を行い、「葉山ブランド」の力を生かした産品を軸に、持続可能な産業づく

(\*) 6次産業：農林漁業者が主体となって、生産から加工・販売までに取り組むこと。

### 【重要業績評価指標（KPI）】

評価指標	現状値 (令和元年度)	目標値 (令和6年度)	根拠データ/備考
直売施設利用者数 (累計)	678,662 人	680,000 人	各直売施設への聞き取りなど

### 主な取り組み

- 農業者の活動を支援し、朝市等で販売される農産物や加工品の生産と消費の拡大を図ります。また、葉山の選りすぐりの野菜が出品、販売される農産物品評会の開催など、消費者に葉山の農産物の魅力を伝える取り組みを推進し、農業の振興を図っていきます。
- 葉山南郷地区に建設された共同店舗である「SHOPPING PLAZA HAYAMA STATION (葉山ステーション)」については、商工会や事業者との協働により第一次産業をはじめとする各種産業の販売経路の確保を図り、引き続き地域の活性化・交流の拠点としていきます。

## ◇施策2 葉山らしい“お店”が作る町のイメージアップ



本町は、洗練されたたたずまいや、老舗の飲食店からスタイリッシュなお店までが調和している街並みが特徴と言えます。そういった葉山らしい雰囲気憧れ、本町で創業したいというニーズが多くある一方で、創業意欲はあるものの思い切れない方々が多数いるはずで

そのニーズに着目し、商工会や金融機関等と連携して創業・新分野開拓や、既存飲食店等の後継者不足と創業意欲のある方とのマッチングなどを行い、創業に伴うリスクを軽減して創業しやすい環境をつくとともに、創業後の課題解決等の支援に向けた取り組みを行います。

### 【重要業績評価指標（KPI）】

評価指標	現状値 (令和元年度)	目標値 (令和6年度)	根拠データ／備考
新規創業者（創業）数	19者/年	20者/年	—

### 主な取り組み

- 平成29年に策定した「葉山町創業支援事業計画」に基づき、商工会や金融機関等と連携し、セミナーの開催など創業者の支援や創業後のサポート体制の構築などに取り組みます。
- 商工会を通じて、各商店会が行うイベントの実施等を支援し、商店街の再生、活性化を図っていきます。

### ◇施策3 新たな担い手の確保



農業は、野菜や果実、米作りが行われ、収穫物は加工品も含めて朝市や「SHOPPING PLAZA HAYAMA STATION（葉山ステーション）」での直売、スーパーや飲食店等への直販、JAでの共同販売や自家消費などとなっていますが、生産者の高齢化に伴う後継者問題と休耕地の増加が課題となっています。

親元農家だけではない新たな就農者の確保に繋がる制度を広く周知し、新たな担い手の発掘を推進します。

#### 【重要業績評価指標（KPI）】

評価指標	現状値 (令和元年度)	目標値 (令和6年度)	根拠データ/備考
新規就農者数 (親元農家を除く)	3人/年	4人/年	—

#### 主な取り組み

- 神奈川県と連携し、かながわ農業アカデミーを活用するなど新たな就農者の確保に繋がる制度を広く周知します。また、休耕地から耕作地に戻すための支援策を検討します。

#### ◇施策 4 葉山らしいライフスタイルの発信



本町は、美しい海岸線や緑などの豊かな自然をはじめ、美術館やレストラン、街並みなど恵まれた地域資源を有しています。こうした多様性を生かし、案内看板、ガイドマップ、ホームページなどを相乗的に作用させることで、本町らしいライフスタイルの発信を行い、過去から築きあげられた町の良さを失わない観光振興を図りつつ、交流人口や関係人口の増加を促進し、移住定住施策に繋げていきます。

#### 【重要業績評価指標（KPI）】

評価指標	現状値 (令和元年度)	目標値 (令和6年度)	根拠データ/備考
町の魅力発信サイト 「はやま life」(町HP)へのアクセス数	5,775 件/月	6,650 件/月	—

#### 主な取り組み

- 町並み、地域イベントなどの地域資源を活用し、住民が感じている葉山の魅力をホームページやインスタグラム等で発信し、町民生活と一体となった観光振興を図ります。

## ◇施策5 地域コミュニティの活性化



本町には 28 の町内（自治）会があり、地域の行事、まちの美化、交通安全や防災などの活動を通して地域住民の生活課題の解決を図るとともに、地域住民の要望を行政へ伝えるなど、地域住民と行政をつなぐパイプ役としても重要な役割を担っていますが、残念なことには加入率は減少傾向にあります。

しかし、災害等の非常時には顔の見える関係性が重要であり、自然災害が多発する近年においては、町内（自治）会の必要性がますます高まっているのが現状です。

そのため、町内（自治）会と連携し、地域を活性化し、住み良い地域社会を築くために、各種イベントなどを通して住民相互のふれあいを深め、地域コミュニティの醸成を図ります。

### 【重要業績評価指標（KPI）】

評価指標	現状値 (令和元年度)	目標値 (令和6年度)	根拠データ／備考
町内（自治）会加入率	74.2%	80%	—

### 主な取り組み

- 地域コミュニティ組織の活性化に向け、若者、女性が参画しやすいしくみづくりや、地域コミュニティ内の防災・環境・福祉など、テーマ型の活動の促進、町内（自治）会館など活動施設の運営に対する支援などを推進します。
- 転入者に対して、引き続き町内（自治）会の情報を提供し、加入率向上を支援していきます。

## ◇施策6 協働によるまちづくりの推進



本町では、平成14年に公設民営の「葉山町まちづくり支援協会」（平成16年に「NPO法人葉山まちづくり協会に移行」）を設立し、町内における非営利・公益的な活動への中間支援を本格化させました。

現在では、多くの個人や団体等が様々な公益的な活動を展開していますが、基本目標である「地域が生き生きと元気や活力にあふれ、人を集めるまち」を実現するため、町民だけでなく、町外の多様な人々や団体等が様々な手段・方法で町にかかわる、いわゆる関係人口のさらなる創出・拡大を図り、協働によるまちづくりを推進します。

### 【重要業績評価指標（KPI）】

評価指標	現状値 (令和元年度)	目標値 (令和6年度)	根拠データ/備考
企業版ふるさと納税の 申し込み件数	—	3件/年	—

### 主な取り組み

- 非営利・公益的な活動への参加のきっかけづくりのため、わかりやすい情報提供や講座・イベント等の実施、活動団体への支援などを進めます。
- 町は、協働の取り組みについて学習・研究を深めるために、学生による「役場での仕事体験」、役場職員による「企業への派遣研修」などを引き続き企画・実施します。

## ◇施策7 『三浦半島魅力最大化プロジェクト』との連携



三浦半島圏域は、既に人口減少が進んでおり、県内の他地域と比較して高齢化率も高くなっています。「第2期神奈川県まち・ひと・しごと総合戦略」（以下「第2期県総合戦略」という。）の中の「基本目標2 国内外から神奈川へのひとの流れをつくる」において位置づけられている「三浦半島魅力最大化プロジェクト」の取り組みと連携を図ります。

特に、海のイメージの強い本町において、地域住民を巻き込む里山再生整備を行い、里山を新たな魅力として発信するなど、三浦半島の魅力の創設・発信を推進します。

### 【重要業績評価指標（KPI）】

評価指標	現状値 (令和元年度)	目標値 (令和6年度)	根拠データ／備考
里山の魅力創造事業への参加人数	241人/年	300人/年	—

### 主な取り組み

- 町民や関係団体等と協働で、棚田の復田等、里山の魅力を創造するための取り組みを推進し、自然環境の保全に努めます。

## 基本目標2 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえるまち

～人口構成のバランスに配慮し、子育て世代の転入・定住者を増やします～

「人口ビジョン」で提示した“めざすべき将来の方向”のうち、「②子育て、教育環境の向上を図る」はもちろん、「①“社会増傾向”の維持・継続に努める」も、若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえることと強い相関関係があります。本町がいまだ本格的な人口減少に直面していないのは、“自然減”（死亡数が出生数を上回る。）を“社会増”（転入者数が転出者数を上回る。）が上回っているためとすることができます。年齢別にみた場合、特に社会増が多いのは30歳代と0～4歳の層であり、子育て中の世帯が転入してきているケースが多いことがうかがえます。今後も家庭、教育・保育施設、保健・医療機関、地域が連携して、子どもたちの健やかな成長と安心して子育てができる環境づくりを推進していくことが大切です。

また、年代別で見ると、“社会減”（転出者数が転入者数を上回る。）になっている20歳代の方の層については、進学や就職のために転出してしまうことを踏まえつつも、県が行う事業等との連携も図りながら結婚や出産等の希望をかなえていくように努めることが重要であり、そうした努力を積み重ねていくことが、本町への転入と定住化の促進、中・長期的な「ひとの流れ」づくりにつながっていくものと考えられます。そのような取り組みの継続が、結果的に出生率の向上ももたらすことが期待されます。

さらには、変化する時代に主体的に行動できる人間の育成をめざして、学校・家庭・地域が連携しながら教育内容や指導体制等の充実を図るとともに、教育環境の整備を進めていくことも大変重要であり、住み、働き、結婚し、子どもを産み育て、ここで教育を受けさせたい、と思うような環境づくりを重点的に進めていく必要があります。

### 【数値目標】

指標	現状値 (令和元年度)	目標値 (令和6年度)	備考
子育て支援施策の満足度	30.8%	70%	町民アンケート調査

## 〔具体的な取り組み〕

### ◇施策 1 子育て支援サービスの充実



核家族化の進行や共働き世帯の増加などにより、家庭での養育・教育機能が低下する一方で、子育て支援サービスのニーズは増加・多様化する傾向が見られることから、サービスの質・量の拡充など、きめ細かな対応を図る必要があります。

円滑な子育て支援制度運営に努めながら、家庭、教育・保育施設、保健・医療機関、地域住民による地域子育て力を強化していきます。

### 【重要業績評価指標（KPI）】

評価指標	現状値 (令和元年度)	目標値 (令和6年度)	根拠データ／備考
待機児童数	52人	0人	—

### 主な取り組み

- 「第2期葉山町子ども・子育て支援事業計画」に基づき、仕事と子育ての両立を推進するとともに、待機児童の解消や様々なニーズに対応する子育て支援サービスの充実を図ります。
- 子育て支援センターや一時預かりの充実、病児・病後児保育の実施、楽しく利用できる児童館づくりに努めるとともに、学校内での放課後児童クラブ(学童クラブ)の実施、運営方法を検討し、放課後の居場所づくりの充実を図ります。
- 子どもの健やかな成長の保障のため、健康診査、家庭訪問、健康教育、育児相談等の母子保健事業等の充実を図ります。
- 育児不安の解消等に向け、情報提供や相談体制の充実を図ります。
- 小児医療費助成、ひとり親家庭等医療費助成、妊産婦健診費用補助など、子育て家庭の経済的負担に対する支援を行います。

## ◇施策2 子どもの健やかな成長への支援



妊娠、出産、子育て期の一貫した支援に向け、家庭訪問、健康診査、予防接種、健康教育、健康相談等の充実を図ります。

また、発達障害児が増加する中、先進的な取り組みである「葉山町発達支援システム」に基づくきめ細かな対応により、発育・発達に不安のある子どもや家庭への乳児期からの一貫した支援に努めます。

さらに、育児不安の解消等に向け、相談体制の充実を図るとともに、地域での見守りや要保護児童対策地域協議会の活動などを通じ、児童虐待防止対策を推進し、子どもを守る地域ネットワークを強化していきます。

### 【重要業績評価指標（KPI）】

評価指標	現状値 (令和元年度)	目標値 (令和6年度)	根拠データ／備考
発達支援システム保護者教室満足度	100%	100%	—

### 主な取り組み

- 安心して出産・育児ができるよう、教育、保健、医療機関が連携し、妊娠初期から出産、乳児期、幼児期と一貫した健康支援活動を推進します。
- 子どもの健やかな成長をめざして、母子に対する様々な保健事業を実施します。
- 乳幼児期から就学期を経て成人に至るまでの各ライフステージにおいて、発達障害のあり方や理解を深めていけるような、発達につまづきのある児童の保護者教室を開催していきます。
- 養育課題の早期把握、早期支援を家庭訪問などにより行うことで、保護者の養育を支え、児童虐待への発展を未然に防ぐとともに、子どもたちが望ましい環境で育てられるようにします。

### ◇施策3 子育て家庭への支援



核家族化の進行やひとり親家庭の増加など、子育ての基礎となる「家庭」を取り巻く環境が変化し、子育てに対する不安感や負担感が増大するなど、安心して子どもを産み育てることが難しい環境となっています。本町が実施したアンケート調査\*では、養育費、教育費などの経済的な負担感や子どもを預かるサポートを要望する回答も多く寄せられています。

こうしたことから、安心して子育てをすることができるよう、社会全体で子育てを支える取り組みや小児医療費助成、ひとり親家庭等医療費助成など子育て世帯の経済的負担の軽減等により、子育てしやすい環境づくりを進めていきます。

(\*) 平成 30 年度葉山町子育て支援に関する調査

#### 【重要業績評価指標 (KPI)】

評価指標	現状値 (令和元年度)	目標値 (令和6年度)	根拠データ／備考
学校内での放課後児童クラブ(学童クラブ)実施	1 か所	4 か所	

#### 主な取り組み

- 小児医療費助成や妊産婦健診費用補助など、子育て家庭の経済的負担に対する支援を行うことで、子どもたちの健全育成への支援と健康増進を推進します。
- ひとり親家庭等の医療費を助成し経済的負担を軽減することにより、生活の安定と自立を促進し、安心して医療を受けられる環境を整えます。
- 入院を必要とする低体重出生児に医療給付を行ってその家庭の経済的負担を軽減することにより、医療を受けられる環境を整え、乳幼児の健全な発育を促進します。
- 経済的な理由より、児童生徒の就学が困難な世帯に、就学に必要な費用の一部を援助します。

## ◇施策 4 新しい時代に必要となる資質・能力の育成



小学校においては令和2年度、中学校においては令和3年度から施行される「学習指導要領」では、「新しい時代に必要となる資質・能力の育成」と、「主体的・対話的で深い学びの実現」が大きなテーマとなっています。

このテーマを踏まえ、本町では、まちの将来を担う子どもたちが、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」をはぐくみ、豊かな自己実現力（生きる力）を持った自立した大人に成長できるよう、町の豊かな地域資源（人材や自然環境など）を有効活用しながら、一人ひとりの個性や能力を適切に引き出すきめ細かな教育を推進します。

### 【重要業績評価指標（KPI）】

評価指標	現状値 (令和元年度)	目標値 (令和6年度)	根拠データ／備考
ICT を活用した授業づくり (研究授業の実施)	3回	6回	—

### 主な取り組み

- 各校における校内研究の充実が図られるよう、専門性の高い大学教授等の講師を派遣する校内研修や、拠点校での研究発表会を通して、授業改善を促進します。
- 各校において学校教育全体並びに各教科等の指導を通してどのような資質・能力の育成をめざすのかを明確にしながら、SDGsの視点を踏まえた授業が行われるよう支援します。
- 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくりがどう展開されているか、町内や保護者に向けた情報発信を行います。
- 情報モラル教育を含めた児童・生徒の情報活用能力の育成や、教科指導における日常的なICTの活用を推進します。
- プログラミング教育の充実をはじめ、ICTを活用した授業実践の推進や教員のICT活用指導力の向上を図るために、県教育委員会等と連携して研修を実施します。

## ◇施策5 青少年の育成



本町においては、核家族化や少子化、生活スタイルの変化などにより、異年齢交流や様々な体験活動を担う子ども会への加入者は、残念ながら減少傾向にあります。しかし、自然体験や社会体験は青少年の豊かな人間性を育むためには必要な機会であるため、町では様々な青少年体験・交流事業を実施し、併せて関係団体等の活動を通じて行われる青少年を育成するための取り組みを支援していきます。

### 【重要業績評価指標（KPI）】

評価指標	現状値 (令和元年度)	目標値 (令和6度)	根拠データ／備考
青少年体験・交流事業の定員に対する参加者数の割合	96%	100%	—

### 主な取り組み

- 青少年が豊かな人間性を育み、社会で生きる力を身につけながら健やかに成長できるよう、学校以外の場における自然体験活動など様々な交流活動の機会を提供します。
- 社会全体で青少年を取り巻く環境を整備するため、「青少年問題協議会」を通じて関係団体や関係機関との情報共有を図るなど、連携を強化します。
- 「青少年指導員」との協働により、青少年が健やかに成長できる環境づくりを進めるとともに、子ども会など地域で活動する青少年関係団体の学校外活動を支援します。

## ◇施策 6 多様なニーズに応じた支援の充実



社会の変容の中で、児童生徒が抱える問題は多様化・複雑化してきており、そのため、学校や学級における温かい集団づくりから始まり、個別の支援方針に基づく継続的な支援に至るまで、一人ひとりの実情を踏まえたきめ細やかな対応や支援が求められています。

本町では、支援体系を三段階にわけ、一次支援では学校における問題発生の未然防止、次に、各校における担任やスクールカウンセラー等との教育相談、教育委員会における教育相談員や指導主事等との教育相談による二次支援、そして最後の三次支援では、支援方針を確定し、それに基づく個別的な支援が、必要に応じてさらに継続的・長期的に行うなど安心して子育てができるよう、教育相談体制の充実に取り組んでいきます。

また、経済的理由により就学が困難な児童・生徒に対する支援を行います。

### 【重要業績評価指標（KPI）】

評価指標	現状値 (令和元年度)	目標値 (令和6年度)	根拠データ／備考
教育相談・特別支援に係る研修の充実	3	6	—

### 主な取り組み

- 小・中学校における通常学級、特別支援学級、ことば・きこえの教室の役割や支援の連続性等を踏まえ、言語障害、学習障害（LD）、注意欠陥多動性障害（ADHD）、自閉症スペクトラム（ASD）等を抱える児童・生徒の学びの場として、通級教室の充実について検討します。
- 障害のあるなしに関わらず、特別な配慮を必要とする児童・生徒の支援について教職員の理解を深めるとともに、特別支援教育支援員の活用も含め、支援体制の充実を図ります。
- 「学校教育法」の規定に基づき、児童・生徒に対して学用品代や給食費等を援助するとともに、町立中学校へバス通学をしている生徒の保護者に、通学定期乗車券購入に係る費用の一部を助成します。
- 高等学校等における教育に関する経済的負担を軽減するため、就学に必要な経費のうち授業料以外のものに充てるための奨学給付金を助成します。

## ◇施策 7 男女共同参画の推進



本町の人口推移を見ると、30歳代の転入が強みであることから、子育て・教育環境を充実させることによる、さらなる子育て世帯の転入を促していく必要があります。

一方で、神奈川県が実施した「神奈川県 結婚・出産・子育て、地方創生などに関する県民意識調査<sup>(\*)</sup>」によると、三浦半島圏域内独身者の65.4%が「いずれ結婚するつもり」と答えています。こうした結婚の希望を実現し、若い世代に結婚後の生活の地として町に住んでもらうことも重要であると考えます。

また、同調査によると「結婚にあたって必要とする公的な支援」については、「子育てしやすい環境づくり」、「結婚したい男女の出会いの場づくり」を求める回答が多くなっており、「葉山町男女共同参画プラン<sup>(\*)</sup>」に基づき、仕事と家庭生活の両立、男女共同参画教育、DV防止対策などを推進していくことが求められます。

さらに、結婚を希望する若い世代の前へ進む一歩を後押しすることや、結婚したい男女の出会いの場づくりといったイベントを通じて結婚願望をかなえられるよう、県第2期総合戦略において位置づけられている「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」取り組みを県と連携しながら推進します。

- (\*) 「神奈川県 結婚・出産・子育て、地方創生などに関する県民意識調査」  
 : 神奈川県民のうち15歳から49歳の2,000人を調査対象に実施した、基本属性・移住・結婚・出産・子育て・仕事に関する調査で、平成27年7月に実施した。
- (\*) 「葉山町男女共同参画プラン」  
 : 女性と男性がお互いを尊重し、個性と能力を発揮できる社会を実現するために町が策定した計画。

### 【重要業績評価指標 (KPI)】

評価指標	現状値 (令和元年度)	目標値 (令和6年度)	根拠データ／備考
町ホームページ上の県主催結婚支援イベント情報の周知にかかるページ閲覧数	722回/年	1000回/年	—

## 主な取り組み

- 県が推進する結婚に向けた機運を醸成する取り組みである『恋カナ！プロジェクト』における各種イベントやセミナーの情報提供を町民に対し積極的に行うなど、県と連携し、結婚の希望実現に向けた支援に努めています。
- 男女共同参画社会の形成と職業生活におけるさらなる女性の活躍を実現するため、意識啓発と実践活動を行います。

### 基本目標3 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るまち

～豊かな自然の中で、心身ともに健康で安心して暮らせるまちをつくります～

“社会増”の実現をめざして一人でも多くの人に「自ら選んで住んでもらえるまち」となるためには、何より安全に、安心して生活できる環境であることが必要です。そのため、火災予防や、自然災害等に強いまちづくりや救急体制の強化、公共交通の利便性の向上を図ります。

さらに、健康づくりや生きがいづくりが最も効果的な疾病予防・介護予防の方策であると言えるため、“健康寿命”を延伸して、町民の健康づくりや生きがいづくりの活動等を支援・促進することも必要になります。介護予防については、第6期介護保険事業計画（平成27年～29年度）から本格的に、「介護予防・日常生活支援総合事業」が開始され、地域住民の様々な自主的な取り組みと緊密に連携しながら施策・事業を推進しています。

また、本町の特徴である豊かな自然の中で、心身ともに健康に暮らせる安心・快適な生活を守るため、マリンスポーツのメッカの一つとして定評のある海や深い緑の山々などの自然環境を、「はやま気候非常事態宣言アクションプラン<sup>(\*)</sup>」や「はやまクリーンプログラム<sup>(\*)</sup>」を通じて行政と町民・団体等が連携して適切に保全していく必要があります。

(\*) 「はやま気候非常事態宣言アクションプラン」

: 令和3年3月に策定した2050年までに温室効果ガス排出量を実質ゼロにするために取り組む5つの行動計画のこと。

(\*) 「はやまクリーンプログラム」

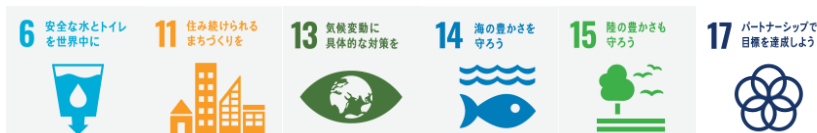
: 深刻化する海洋汚染や地球温暖化対策に貢献すべく、マイクロプラスチック問題への取り組みを中心としたプログラムのこと。

#### 【数値目標】

指標	現状値 (令和元年度)	目標値 (令和6年度)	備考
普段、自分が健康と思う と考えている人の割合	83.3%	85%	

## 〔具体的な取り組み〕

### ◇施策 1 緑の保全活動の促進・支援



令和2年度に実施した第四次総合計画後期基本計画策定アンケートにおいて、約9割の人が自然環境の豊かさを町の特徴（強み）として挙げるなど、深い緑の山々などを守るべきものとして過去から現在まで町民に広く認識されており、町の魅力の維持向上のためにも引き続き自然環境保全活動に注力していく必要があります。

そのためには、首都圏に残された貴重な緑という広域的な観点のもと、『葉山町都市計画マスタープラン』、『葉山町緑の基本計画』や『葉山町森林整備計画』に沿った保全活動を中心に、本町の自然や景観の特徴を尊重しながら多様な生物環境や緑の保全活動を促進するとともに、町民と協働して緑豊かなまちづくりを推進していきます。

#### 【重要業績評価指標（KPI）】

評価指標	現状値 (令和元年度)	目標値 (令和6年度)	根拠データ／備考
民有緑地の保全契約面積	4.27ha	現状維持	—

#### 主な取り組み

- 現存する三浦半島の骨格的な緑、市街地を取り囲む丘陵地の豊かな自然や海沿いのクロマツと岩礁、砂浜が織りなす風景、森戸川上流域や下山川支流の豊かな自然環境を保全し、自然と共生するにふさわしい環境を確保し活用します。
- 低層戸建住宅が主体となる市街地では、安全で快適な環境を形成する観点から、防災や景観などに配慮した公園等のオープンスペースを確保するとともに、敷地内緑化等により、目に映る緑の多い風格ある街並みの維持・形成に努めます。
- 本町の自然と緑の魅力への理解を深め、町民が緑豊かなまちづくりに参加できるよう、普及・啓発活動やイベント等を実施し、町民との協働・連携を図り、みんなで自然を守り緑を育てる機運づくりに努めます。
- 町民や関係団体等と協働で、棚田の復田等、里山の魅力を創造するための取り組みを推進し、自然環境の保全に努めます。

## ◇施策 2 消防組織と火災予防、救急体制の強化



本町の消防・救急体制は、常備の消防本部・消防署と非常備の消防団となっています。常備消防は、複雑多様化する火災・災害、増加する救急需要に対応するため、業務の高度化・専門化が求められているとともに、効果的・効率的な車両の整備・更新を行う必要があります。

地域防災力の中核を担う消防団については、団員の確保を継続的に進め組織力の強化を図るとともに、安全装備品等の整備を計画的に行い、災害対応力の向上に努めてまいります。

生命・財産が守られ、だれもが安心して生活できる町の実現のため、消防・救急体制をさらに強化してきます。

### 【重要業績評価指標（KPI）】

評価指標	現状値 (令和元年度)	目標値 (令和6年度)	根拠データ／備考
消防団員の充足率	79.8%	100%	$\frac{\text{実団員数}}{\text{定員数}}$
人口 1 万人あたりの出火率	2.3 件/年	1.6 件/年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現状値は、平成 27 年から令和元年度までの平均</li> <li>・目標値は、令和 2 年から令和 6 年までの平均</li> </ul>

### 主な取り組み

- 消防団への入団促進を図るとともに、地域の防災拠点となる消防団詰所や活動用資機材を常に適正な状態に保つため更新・整備を行います。
- 高度な知識・技能を有する消防職員を育成し、組織力の強化を図ります。
- 防火に関する啓発活動や指導を行い、火災予防を徹底します。
- 消防活動資機材の整備により、消防体制の充実・強化を図ります。
- 救命効果の向上を図るため、救急資機材の充実、救急隊員の知識・技術の向上、医療機関など関係機関との連携強化を図ります。

### ◇施策3 災害に強いまちづくりの推進



本町では、東日本大震災や各地で頻発する豪雨災害の教訓、さらには南海トラフ巨大地震、首都圏直下型地震に関する知見をもとに、平成 29・30 年度に地域防災計画を改定しました。この計画に基づき、町民一人ひとりの防災意識の高揚や地域の防災活動の支援を通じて、町民と行政が一体となった地域防災対策を推進していく必要があります。

主な課題としては第 1 に、地域の自主防災リーダーの養成や自主防災訓練の支援など、地域防災力を強化する取組を推進する必要があります。第 2 に、災害情報を町民に確実に伝えるために、防災行政無線をはじめ、それを補完する防災情報メールなどの複数の情報伝達手段を確保・充実させるとともに周知を図る必要があります。第 3 に、町単独では対応できない大規模災害に対し、防災関係機関との災害協定の締結を進め、応援体制を充実・強化していく必要があります。第 4 に、ハザードマップの作成、耐震改修や土砂災害防止対策、ライフライン施設の強靱化など、災害対策のソフト・ハード事業を継続的に推進していく必要があります。第 5 に、避難所の良好な生活環境の確保のほか、高齢者や障害者など要配慮者が安心して避難できる避難場所の確保を図っていく必要があります。第 6 に、地震や風水害などの自然災害の同時発生や、感染症流行時における自然災害の発生など「複合災害」に対する対策を推進していく必要があること、などが挙げられます。

災害発生時の被害の半減を目標に、日頃からの災害予防対策を進め、自助・共助・公助による適切な役割分担により、地域防災力を高め、災害に強い安全なまちづくりをめざしていきます。

#### 【重要業績評価指標（KPI）】

評価指標	現状値 (令和元年度)	目標値 (令和6年度)	根拠データ／備考
町内(自治)会等訓練回数 (年間)	17回	28回	—
防災メール登録件数 (累計)	7,354件	17,000件	—

## 主な取り組み

- 「自主防災組織」や「女性防火防災クラブ」などの自主防災活動を自主防災訓練奨励金制度や自主防災リーダー養成研修等を通して、更なる活性化を図ります。
- 防災行政無線の適切な保守運用に努めるとともに聞きづらい時の補完手段の充実や周知を図ります。
- 避難行動要支援者を関係機関が的確に把握し、迅速な避難誘導、避難所での適切な支援ができる体制づくりを進めます。
- 感染症拡大時における豪雨や台風などによる風水害や地震災害が重なる複合災害発生時における避難所運営のあり方の検討やプライバシーへの配慮など環境整備ペット同伴の避難所運営の研究を進めます。
- 各家庭・事業所による水や食料の適切な備蓄を支援・促進します。

## ◇施策 4 健康づくりの支援・推進



だれもが健康で生き生きと暮らしていけるようにするためには、町民一人ひとりが健康づくりに関心を持ち、その活動に取り組む人を増やしていくことが大切です。町民自らが健康づくりを実践・継続できるよう、動機付けや環境づくりに重点を置きながら支援を行っていきます。

また、がんや生活習慣病の予防・早期発見・早期治療の観点から、特定健康診査や各種がん検診等の重要性を十分に認識できるよう、その普及・啓発に一層積極的に取り組むとともに、実施にあたっては、時間や場所などの受診しやすい環境づくり等に努めていきます。

### 【重要業績評価指標（KPI）】

評価指標	現状値 (令和元年度)	目標値 (令和6年度)	根拠データ／備考
「1回30分以上の運動を週2回以上1年以上継続している人」(国保特定検診問診項目)の割合	40.8%	42%	国保データベースシステム
特定検診を受ける人(国保)の割合	28% (平成30年度)	31%	法定報告

### 主な取り組み

- 各種健康増進教室の実施や、町内6字分(木古庭・上山口・下山口・一色・堀内・長柄)のウォーキングマップの作成・配布及びマップを活用してのウォーキング教室を実施します。  
健康増進施設利用補助事業による運動習慣の動機付け、保健師や管理栄養士による各種保健指導や地域活動等との連携等を通して「自分の健康は自分で守る」という意識の普及・啓発を図り、町民自身での健康づくりを推進します。
- 町民が健全な心身を保ち、生涯にわたって生き生きと暮らすことができるよう、保健・教育・産業など各部門で連携し、楽しく美味しく健康的な「食」についての情報発信と食育推進に努めます。
- 生活習慣病やがんの予防と早期発見を図るため、健康診査や各種検診を多くの人が受けることができるよう、受診しやすい環境を整備するとともに、受診後の相談

体制の充実・強化を図ります。

- 保健衛生関連団体の活動を支援することにより、町民の保健衛生の向上と健康増進を図ります。

## ◇施策5 地域特性を生かしたまちづくりの推進



青い海や緑豊かな丘陵など四季折々に美しい変化を見せる本町の豊かな自然環境や景観を保全していくためには、「葉山町都市計画マスタープラン」に基づき、町内のそれぞれの地区の特性に合わせた発展と秩序ある整備を進めていく必要があります。

豊かな自然の中で、心身ともに健康で安心して暮らせるまちをつくるため、町民と協働で、都市計画や景観形成の新しいルール・計画づくりを進め、その計画に沿いながら、地域住民のニーズに応じた取り組みを推進します。

### 【重要業績評価指標（KPI）】

評価指標	現状値 (令和元年度)	目標値 (令和6年度)	根拠データ／備考
地域まちづくり推進協議会の認定数	5 団体	6 団体	

### 主な取り組み

- 古くから継承されてきた葉山らしい町並みの維持保全をめざすため、地域特性を生かしたまちづくり活動を行う地域まちづくり推進協議会への支援し、地域に則した規制誘導の推進に引き続き努めます。
- 町は、都市計画、土地利用規制、景観形成に関する取り組みなど、地域レベルのまちづくりへの町民の主体的な参画・協力を促します。
- 道路や公共施設など、公共空間のユニバーサルデザインについて研究を進めるとともに、民間施設についても同様に誘導する方策を検討します。

## ◇施策6 公共交通の環境整備



本町には、鉄道がなく、J R 逗子駅、衣笠駅、京浜急行逗子・葉山駅、汐入駅と町内を結ぶ路線バスが重要な交通手段となっており、安心して住み続けるためには、交通手段の確保は重要な課題です。多くの路線は1時間に2～6本程度運行していますが、新型コロナウイルスの影響により、減便を余儀なくされている路線もあります。また、高低差があり高齢者のバス停までの移動が困難な地域やバス停から離れた地域の利用環境の向上が課題となっています。

バス停への屋根の設置等、利用環境の向上に向けた取り組みを進めるとともに、路線バスとの新たな交通手段を組み合わせた町の交通計画の策定に向け関係者との協議の場を設け、高齢者や子育て世代にも配慮した公共交通の環境整備を推進します。

### 【重要業績評価指標（KPI）】

評価指標	現状値 (令和元年度)	目標値 (令和6年度)	根拠データ/備考
公共交通の利便性に不満をもっている町民の割合	30.2%	0%	町民アンケート

### 主な取り組み

- 通行本数の維持を原則とし、ニーズを踏まえながら状況に応じて、バスの新たな運航路線や増便を事業者に対して引き続き要望していきます。
- 主要なバス停へのベンチ、屋根の設置等、利用環境の向上に向けた取り組みを関係機関とともに進めます。併せて、バスベイ（バスが停車するスペース）の整備についても、機会を捉えて関係機関へ要望します。
- バス停から離れた地域などの交通利便性を向上させる手段として、新たな交通手段の検討、導入を図るため、交通事業者や関係機関との協議の場を設置し、交通計画の策定に向けた検討を進めます。

## 施策 7 地球温暖化対策の推進



近年、日本各地において大型台風や集中豪雨などによって各地に甚大な被害をもたらしており、本町においても大型台風によって停電や断水、土砂の崩落など、大きな被害に見舞われました。これらの異常気象は、温室効果ガスの増加に伴う長期的な地球温暖化の傾向と関係しているとされています。

国においては、2050年までに温室効果ガス排出量を実質ゼロとし、脱炭素社会の実現をめざすことを宣言しており、本町でも、その趣旨に賛同し令和3年3月に「はやま気候非常事態宣言」を発出しました。

地球温暖化対策の推進は時代の要請であり、今を生きる私たちが本町の海や里山を守るため、環境配慮行動に積極的に取り組み、豊かな自然環境を将来に継承していきます。

### 【重要業績評価指標（KPI）】

評価指標	現状値 (令和元年度)	目標値 (令和6年度)	根拠データ／備考
再生可能エネルギーシステム等設置補助金交付件数	19件/年	25件/年	
電気自動車等購入費補助金交付件数	—	10件/年	—

### 主な取り組み

- 「はやまクリーンプログラム」等、町が率先して、資源再生利用や省エネルギー対策、再生可能エネルギーの活用に取り組むとともに、町民、事業者に対する情報提供や意識啓発を進め環境に優しいまちづくりを推進します。
- 脱炭素社会の実現に向け、太陽光パネル、エネファーム、蓄電池を含めた再生可能エネルギーシステムの設置に対する補助、電気自動車の購入に対する補助を行い、多くの町民が資源再生利用や省エネルギーを推進するよう働きかけます。

## 第3節 推進と進行管理

### 1 推進・進行管理の考え方

「総合戦略」を実効性のあるものにするため、行政評価と計画の見直し・予算編成を連動させた「PDCAサイクル」により計画を推進し、進行管理を行います。

施策の振り返りは1年毎に行うものとし、適切な評価・改善に繋がります。

Plan (計画立案)	数値目標・客観的な指標を設定した効果的な「総合戦略」を策定する
Do (実施)	「総合戦略」に基づく施策を実施する
Check (評価)	数値目標や客観的な指標の達成度を通じて、「総合戦略」の成果を客観的に検証する
Action (改善)	検証結果を踏まえて施策を見直すとともに、必要に応じて「総合戦略」を改定する

### 2 推進・進行管理の具体的内容

